

## 第 61 回評価監視委員会の開催について

第 61 回一般財団法人建設物価調査会評価監視委員会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

開催日時	2020 年 10 月 27 日（火）14：00～16：00	
開催場所	一般財団法人建設物価調査会 会議室	
出席委員 （五十音順）	鵜飼 誠（元会計検査院 第 1 局長） 佐藤 淳（東邦監査法人 代表社員、公認会計士） 寺川祐一（委員長（医療用医薬品製造販売業公正取引協議会 専務理事）） 宮本和明（パシフィックコンサルタンツ株式会社 社会イノベーション事業本部 技術顧問）	
当会	共通資材調査部 大谷忠広、康広誠己、品川広志、圖師友美 第二土木調査部 原田邦裕、上田浩嗣、沖田智紀、村田明日香 調査統括部 神田尚昭、平野光芳 監査審査室 後藤 裕、吉田光正	
審議案件	案件	備考
	（定期調査） 地質調査市場単価 （全国）	「建設物価」2020 年 7 月号 867 ページ 《「土木コスト情報」2020 年夏号 296 ページ》掲載価格について、調査 結果記録票、調査結果集計表等に基 づき、調査方法、調査プロセス等を 説明
	（受託調査） 雨水ポンプ用原動機・減速機	受託調査について、調査票、調査報 告書等に基づき、調査方法、調査プ ロセス等を説明
委員からの主な意見・質問 それに対する調査会から の回答等	別紙のとおり	
委員会による指摘 （不適切な点又は改善すべ き点）	なし	

別紙

意見・質問	説明・回答
<p>1 定期調査について 地質調査市場単価</p> <p>○土質ボーリングの単位のm(メートル)とは深さのことか。</p> <p>○深さによって単価は変わるのか。</p> <p>○10mまで掘ると 50mまで掘るのでは、コスト面で単価は変わるのか。</p> <p>○ボーリングマシンの設置コストは、m当たり単価に含むのか。</p> <p>○市場単価導入の要件は何があるのか。</p> <p>○調査票の価格欄が空欄の場合はどのように決定しているのか。</p> <p>○途中で土質が変わった場合はどのように単価を計算するのか。</p> <p>○大手各社は、全国的に展開しているのか。</p> <p>○全国的に単価差がないのはなぜか。</p> <p>○コロナ対策での調査への影響はあるのか。</p>	<p>○土質ボーリングのせん孔深度のことである。</p> <p>○深度 50m以下のm当たり単価を「建設物価」に掲載している。50mを超えると補正係数を適用して割増しとなる。</p> <p>○50mまでは同じm単価である。例えば、50mを超え、80m以下の場合は単価が上がり、補正係数は1.1となる。</p> <p>○m当たり単価には含まない。別項目で計上されている。</p> <p>○民間と民間の間取引があり、施工単位当たり単価で取引されていることなどが市場単価の成立要件である。2002年度に民取引が確認されたため、市場単価化された。</p> <p>○面接調査や電話調査で確認するなどしている。</p> <p>○都度、その土質に応じた価格で積算される。</p> <p>○大手各社は各地区に事業所を持っていて、各地区のシェアも高い場合が多い。各社の地区ごとの情報も調査時に確認している。</p> <p>○労務単価が全国一律で公表されていて、各社とも労務単価をベースに考えていることが主な要因と思われる。</p> <p>○面接調査が基本であるが、電話、メール調査も併用して実施している。緊急事態宣言解除後は、調査先の了解を得たうえで、感染拡大防止の措置をとり、訪問するようにしている。</p>

別紙

意見・質問	説明・回答
<p>2. 受託調査について 雨水ポンプ用原動機・減速機</p> <p>○価格摘要に工場渡し価格と書かれている。輸送費はどうなっているのか。</p> <p>○各地に工場があり、工場の所在地が違うため、それも含めて発注者が判断するのか。</p> <p>○ポンプメーカーが購入して、現場に搬入するのか。</p> <p>○ポンプメーカーに輸送費も含めて見積りをとるのが合理的では。</p> <p>○維持管理費まで含めた調査依頼はないのか。</p> <p>○河川のポンプと下水道のポンプではポンプの仕様は大きく異なるのか。</p> <p>○工事は原動機メーカーではなく、ポンプメーカーが受注するのか。</p>	<p>○輸送費は、価格と合わせて報告する質量をもとに発注者側で積算します。</p> <p>○工場所在地も調査対象となる場合もあるが、今回は質量だけの調査依頼のため、発注者が判断すると思われる。</p> <p>○今回は、ポンプメーカーが原動機等も含めて現場に搬入するものと想定される。</p> <p>○「現場搬入時期」「納入条件」等が明確にならないと、ポンプメーカーも概算の輸送費しか算出できない。</p> <p>○維持修繕の調査依頼は増えてきている。</p> <p>○基本的な内部構造は一緒であるが、動作環境は異なる。河川排水の場合は、河川増水時のみ稼働するが、下水道の場合は、毎日汚水が流れてくるので、動作の頻度は下水道のほうが多い。排水という目的は同一であるが、取扱流体が異なるため塗装仕様も異なる。</p> <p>○今回はポンプも併せて発注想定のため、ポンプメーカーが元請として受注すると思われる。</p>
<p>3 次回開催日について</p> <p>○次回評価監視委員会は、2021年2月下旬に開催予定。</p>	